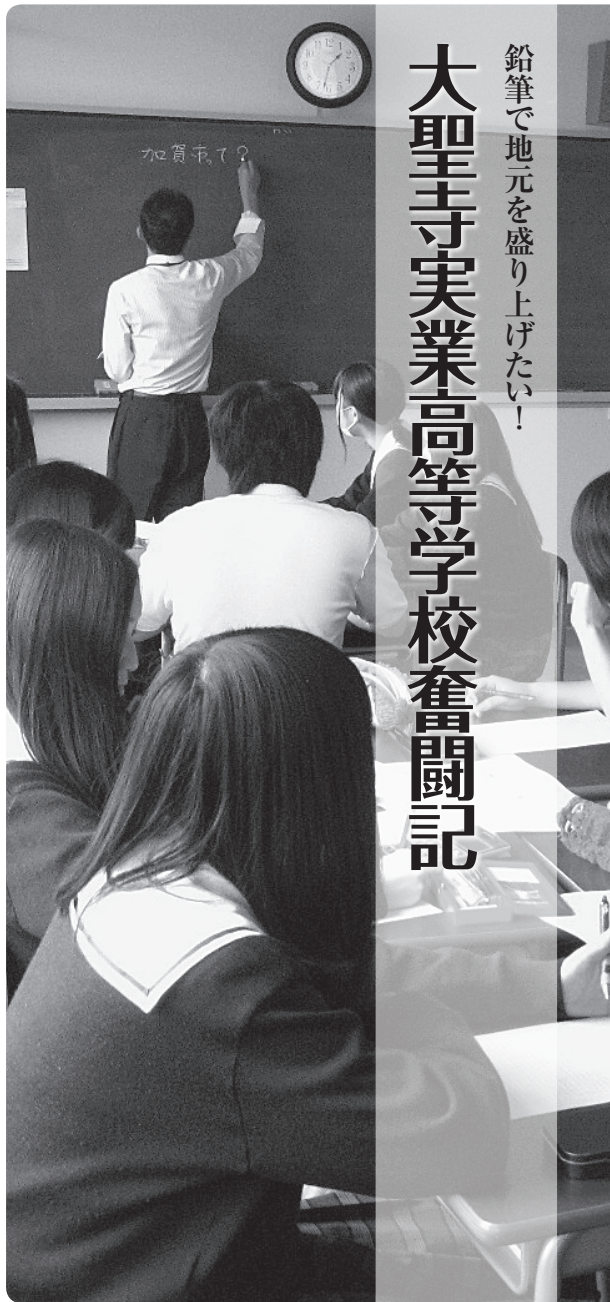


鉛筆で地元を盛り上げたい!

大聖寺実業高等学校奮闘記



鉛筆工場「加州松島社」の存在

JR北陸本線の^{だいしょうじ}大聖寺駅を降りると、駅前に「古九谷発祥之地」と書かれた碑がある。美しい色絵で知られる九谷焼が、江戸時代初期、加賀の大聖寺藩を治める初代藩主・前田利治のもとで作り始められたことを知る人は、意外に少ないかもしれない。

しかし、日本の鉛筆生産の歴史の中で、ごく初期に誕生した鉛筆工場がこの地にあったことを知る人は、もっと少ないだろう。そんな地元の歴史を知った高校生たちがいま、加賀市をアピールしようとしてオリジナルの鉛筆製作に取り組んでいる。

石川県加賀市にある県立大聖寺実業高等学校（以下、実高。ことの起こりは、情報ビジネス科の授業で「加賀ふるさと検定」のテキストが教材として使われたことだった。

加賀ふるさと検定は、加賀の歴史や文化、自然や行事などを再認識してもらったり、生涯学習の一環として活用されることを狙って、加賀商工会議所が始めたもの。テキストによると、大聖寺には昔、「加州松島社」という鉛筆工場があったというのだが、残念ながら現在は残っていない。

明治八（一八七五）年、加賀の富士写ヶ岳山麓の片谷村で良質の黒鉛が発見された。旧大聖寺藩士で、当時、大蔵省の役人をしていた飛鳥井

清は、この黒鉛を利用し、鉛筆を製造することで、窮乏していた旧大聖寺藩士の土族授産の一助にしたいと考えた。

飛鳥井が、同じく旧藩士の柿沢理平を工場長として、ヨーロッパで鉛筆製造を学んだ井口直樹の指導を受けながら、明治十年に大聖寺松島町に設立したのが加州松島社だ。

理平の創意工夫によって、明治十六年にオランダで開かれたアムステルダム万博で第一級第一等賞を獲得するなど、加州松島社では舶来品に

劣らない鉛筆を作り出すことに成功した。

日本の鉛筆製造会社は、多くが明治二十年以降に創業されている。三菱鉛筆の創設者・眞崎仁六が製造に乗り出したのも、明治二十年のことと、となると、加州松島社は日本でもっとも早い時期に鉛筆を大量生産した工場だったといえる。

考案までの道のり

実高では、毎年、授業の一環でい

親子バトル 解決ハンドブック

発達障害の子と奮闘するママ&パパのトークサロン

安藤壽子・安藤正紀 編著

A5判 96頁 本文2色 並製 本体1,500円+税



個性豊かなお子さんとママたちとの出会いから生まれた本。学校や家庭で次々に起こる様々な課題をどのように乗り越えていくか

先輩ママたちの「こんなときどうした」が満載!

- ・ 学童期の親子バトル編
 - ・ 学校生活こまごまと編
 - ・ 思春期の親子バトル編
 - ・ 社会生活どうしよう編
- 以上、4章構成

小学生のスタディスキル

安藤壽子 編著
B5判 ● 2,200円+税

図書文化

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15
TEL. 03-3943-2511